

## 旧グラバー住宅

この家は、スコットランドの有力実業家、トーマス・ブレイク・グラバー(1838~1911 年)のために、1863 年に大工の棟梁、小山秀之進(1828~1898 年)によって建てられた。グラバーは家族とともにこの家に住んでいたが、1876 年に東京に移り住んだ。グラバーは、茶、材木などの物資を西洋に輸出し、鉄砲、機械、蒸気船を輸入することに初めて成功した。1868 年の明治維新で激動の時代を経て、日本初の蒸気カスリップドックを建設、佐賀藩が高島炭鉱を始める手助けをした。三菱の二代目代表・岩崎弥之助(1851~1908 年)と親しく付き合い、1876 年、三菱の顧問として家族と一緒に東京へ移る。グラバーが去った後も、長崎の著名な外国人の人々が住んでいたが、1909 年にグラバーの息子である富三郎(1871~1945 年)が妻と同居を始め、1939 年に富三郎が三菱商事に売却して 1957 年に長崎市に寄贈し、1961 年に国の重要文化財に指定され、2015 年に UNESCO 世界遺産に登録された。

洋風のデザインが多いが、壁と屋根と柱と梁の骨組みが丸石になっているなど、基本的な構造は和風である。中に畳ではなくフローリングで、英国式の石炭焚きの暖炉、フランス式の窓などがある。

---

|           |         |
|-----------|---------|
| 採用番号 NO : | 023-006 |
|-----------|---------|